

＝ AMDA 兵庫活動記録【平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日】＝

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	兵庫県支部写真展開催 一兵庫医療大学地域連携室に於いて（桂木、藤本）
平成 30 年 4 月 8 日	富士通春まつり参加（諫山、岩村、宇都宮、江口、大西、納、鈴記、中田、藤本）
平成 30 年 5 月 4 日～5 日	アースデイ神戸参加（岩村、江口、桶川、鈴記、原田、藤本、AMDA 神女クラブ）
平成 30 年 6 月 12 日	南海トラフ地震支援活動対策会議（江口、鈴記、中山、原田、藤本）
平成 30 年 7 月 29 日～8 月 1 日	徳島県阿南市視察（江口、鈴記、原田、藤本）
平成 30 年 7 月～8 月	西日本豪雨災害支援活動 岡山アムダ本部、サンワーク総社、まび記念病院、岡田小学校
7 月 15 日	江口、原田、藤本
7 月 16 日	原田、藤本
7 月 19 日～20 日	相羽
7 月 19 日～22 日	鈴記
7 月 30 日～8 月 2 日	早瀬
8 月 3 日～5 日	河田
8 月 5 日	藤本
8 月 12 日～15 日	原田
平成 30 年 7 月 25 日	神戸市薬剤師会訪問（江口）
平成 30 年 8 月 9 日	兵庫県災害医療センター 第 1 回兵庫県災害救急医療システム運営協議会（鈴記、原田）
平成 30 年 9 月 1 日	防災の日 徳島県防災訓練参加（藤本）
平成 30 年 9 月 3 日～21 日	岡山アムダ本部 インド豪雨災害支援活動、北海道胆振地震支援活動、本部支援物資の整理等々（原田）
平成 30 年 9 月 6 日	神戸女子大学須磨キャンパス AMDA 神女クラブ新顧問 魚里教授との面会（中田、中山）
平成 30 年 9 月 16 日～22 日	北海道胆振東部地震 医療調整員（鈴記）
平成 30 年 10 月 18 日	神戸女子大学ポートランドキャンパス AMDA 神女クラブ交流会（桂木、中田、原田）
平成 30 年 10 月 25 日	神戸女子大学ポートランドキャンパス AMDA 神女クラブ交流会（小倉）
平成 30 年 11 月 2 日	神戸女子大学ポートランドキャンパス AMDA 神女クラブ交流会（相羽、早瀬）
平成 30 年 11 月 3 日	AMDA 兵庫 20 周年記念シンポジウム （相羽、江口、小倉、神徳和郎、神徳規子、早瀬、中田、中山） シンポジスト：AMDA 兵庫理事長 江口貴博、AMDA 兵庫 相羽亜紀子理事 高杉尚志氏、AMDA マインズ 山上正道氏
平成 30 年 11 月 11 日	神戸グローバルチャリティーフェスティバル（江口、AMDA 神女クラブ）
平成 30 年 11 月 24 日	第 5 回 AMDA 南海トラフプラットフォーム調整対応会議（中田、原田、藤本）
平成 30 年 12 月 18 日	特別対談 AMDA グループ菅波茂氏・蓮華院東山ご住職 ラ・スイートホテル オーシャンビュー （相羽、諫山、江口、桶川、桂木、小林、中田、中山、原田、藤本）
平成 30 年 12 月 24 日	ワンワールドフェスティバル for ユース 2018 大阪 YMCA（原田、藤本）
平成 31 年 2 月 14 日	(株)ラ・スイート神戸 寄付贈呈式（江口）

＝ご寄付（敬称略）【平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日】＝

藍の脳神経外科病院、朝田春美、井上京子、岸路悦子、神戸市薬剤師会、佐野悦子、神女クラブ、ダ・カーポ音楽事務所
田村弘子、土井真理子、長谷川好昭、水の都記念病院、森敏子、幸長敏尚、(株)ラ・スイート神戸（五十音順）

◇会員の募集

活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。

- 年会費
- 正会員：年会費 10,000 円
- 賛助会員：年会費 1 口 3,000 円（1 口以上）
- 学生会員：年会費 3,000 円

◇AMDA 兵庫の活動に参加して下さい

AMDA 兵庫では前述のプロジェクトに積極的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。
随時、定例会を開いております。AMDA 兵庫にご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

	AMDA 兵庫	定例会 随時、開催します。
	〒673-0896	HP に掲載しますので、ご覧ください。
	明石市日富美町 5-16 3 階にじ作業所内	
	E-mail: amdahyogo@yahoo.co.jp HP: http://amda-hyogo.com 発効日: 2019 年 5 月	

AMDA 兵庫だより



2018.4～2019.3 Vol.9

AMDA 兵庫設立 20 周年記念シンポジウム 中田 由紀

平成 30 年 11 月 3 日（土曜日）「こうべまちづくり会館」に於いて、『AMDA 兵庫設立 20 周年記念シンポジウム』が開催された。このなかで、ネパール子ども病院の支援活動に貢献してきた 4 名による講演が行われた。
まず、相羽亜紀子氏による「ネパール子ども病院との出会い、そして AMDA 兵庫の活動を通じて」、ネパール子ども病院の建物が増えていくなか、周囲も整備され、病院の発展とともに町が形成される様子がわかった。医療技術や機材が日本と隔たる中、開院当初より多くの会員が現地を訪れ、小児科や小児外科、小児看護の重要性を伝えた。周産期棟が新設されてからは産科技術の向上、医療環境の整備、看護師の教育などスタッフとともに考えた。これらの集結により、開院 20 年を経て病院の質の向上に繋がったと

いえる。私達の熱意と支援が伝わってくる内容であった。
次に、AMDA マインズ山上正道氏による「ネパール子ども病院をご支援くださった方々」では、これまでの支援活動は、多くの人たちの寄付や協力によるものであり、この原点を忘れるべきではないという内容だった。
高杉尚志氏による「私とネパール子ども病院とのかかわり」は、長年、小児科医として活動し、現在岡山県総社市で地域医療に携わる医師の視点でみた、子ども病院との関連性の話しだった。
最後に、江口理事長がこの 20 年を振り返り、改めてネパール子ども病院への想いと感謝の気持ちを伝えた。
4 名の講演は、設立 20 周年という節目にふさわしいものであった。

西日本豪雨災害支援活動

（AMDA 本部発行の冊子より抜粋して掲載）

すべては被災者のために 理事長 江口 貴博

この度の平成 30 年 7 月西日本豪雨災害で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。
私たち AMDA 兵庫は、阪神淡路大震災をきっかけに立ち上がり、AMDA の掲げる相互扶助の精神に共感し、「震災の時に頂いた支援のお礼をしよう」という掛け声の元、東日本大震災や熊本地震など、多くの災害の現場で AMDA 本部と行動を共にして参りました。そして、世界中の災害現場での経験を持つ AMDA のスタッフから多くのことを学んできました。今回の豪雨災害における岡山県総社市と倉敷市真備町への物資支援や人的支援などでも、その経験が生かされたように思います。
支援物資の輸送について、宅配業者による輸送では東日本大震災での遅配や九州北部災害での未達の経験から、自ら運ぶのが確実だという思いがありました。また、必要な支援物資は日々変わることや、現場の人間に直接聞くのが一番であるという思いから、AMDA 本部の調整員と連絡を取り合い、前日の夜や当日の高速インター付近で必要物資を調達しながら現地に入りました。まさに AMDA の行動原則、ローカルイニシアチブと言えます。
また、今後起こるとされている南海トラフの津波災害において、AMDA 兵庫は徳島県阿南市を担当することになっていますが、調整員が不足するとの観測から、今回の災害支援においては、看護師、薬剤師、検査技師、保健師の派遣者が調整員としての経験を積むことができました。南海トラフ地震の発災時には、できるだけ自分たちのスタッフで現地に入り、AMDA 本部調整員の負担軽減に努めたいと考えております。

また、今回の医療支援では、被災したクリニックや病院の支援という新たな試みにも関わることができました。鈴記副理事長が、医師として地域医師会とともに被災医療機関の保険診療再開に尽力いたしました。これも、南海トラフ津波災害の際、被災医療機関の再生を手助けするという、AMDA の新たな支援の方向性との認識を深めました。
今回、私自身も医師として現場に入りましたが、菅波代表の現場統率力と人を動かす力にも学びがありました。印象に残った言葉は「すべては被災者のために」。その言葉を胸に刻みながら、これからも様々な災害において AMDA 本部と行動を共にして参ります。今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
最後に、手作りパンの支援を頂いた、知的障害者就労支援施設「パン工場なないろ」の子供達、そして飲料の支援を頂いた、AMDA の応援団「奇兵隊」のメンバー寺嶋社長にも感謝申し上げます。



副理事長 鈴記 好博

今回の西日本豪雨災害支援活動に私は2度、AMDA から派遣されました。

初めの派遣は2018.7.19～22、大きな被害を受けたまび記念病院において、健診車を用いた仮設診療所開設の手伝いをするというのが主な仕事でした。この仮設診療所は、私が被災地入りした日の前日から始まったばかりで、まだ診療所としてのシステムを手探りで構築しているところでした。それが、私がお世話になった4日間で診療の流れや処方体制などのシステムが改善されていき、患者さんの流れが日ごとにスムーズになっていきました。そして私が帰る7.22で当機関へのAMDAからの医師派遣は終了となりましたが、その時点で健診車撤収後の診療継続の道筋も見えながらのいい状況で、うまく地元の先生方に仮設診療所を託せることができたのでした。

帰り際に、まび記念病院の村松院長先生から、「はじめ、こんな健診車を持ってこられてどうなることかと不安でした。しかし笑顔で帰っていく患者さんを見て、今となってはよかったと思います。先生がいなければここまでできなかったでしょう。本当にありがとうございました。」と、大変うれしい言葉を頂きました。しかしそれは、まび記念病院職員の皆さんをはじめ、地元の吉備医師会の先生方、AMDAのメンバー、そして真備地区に集結したその他の医療支援チームの方々のすべての力で進んで行ったものだと思いたします。

2度目の派遣は2018.7.28～30、豪雨災害後の台風12号直撃に先んじて総社市入りし、豪雨災害に対応した避難所に加え新たに総社市が立ち上げる台風12号に備えての避難所への緊急対応支援というもので、徳島県海部病院の稲葉先生と一緒に活動してもらいました。

台風直撃の7.28の夜はオンコール体制で緊急対応に備えましたが、幸い大きな被害も出ず台風は過ぎていきました。

翌日は総社市内の11カ所の避難所を巡回、健康相談を受け



アースデイ神戸 2018 に出店しました

今年も5月4日(金祝)、5日(土祝)みなとの森公園(震災復興記念公園)でネパール雑貨などを販売しました。神戸女子大学の学生がボランティアとしてお手伝いに来てくれました。



富士通春まつりに出店しました

4月8日(日)富士通明石工場でAMDA兵庫の広報活動のためネパール紅茶やネパール雑貨を販売しました。



ました。現在受けている感染治療についての質問や、保険証の紛失の相談、血糖検査が病院でできなかった不安、災害後のストレスなど、多くの相談に対応させていただきました。

最終日に所用でまび記念病院へ寄ったところ、診療所は健診車からプレハブになり、外来はすっかり地元の先生方の力のみで回っているという、理想的な状況となっていました。

今回はいつもの避難所などでの医療支援とは違う活動をさせて頂き、僕もいい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

看護師 相羽 亜紀子

支援活動のお役に立てればと、健診車を使った外来診療に参加しました。病院が被災したことで地域の方々の不安も強く感じましたが、知っている医療関係者に会え薬を受け取れたことで安堵された表情を見てお手伝いが出来てよかったと思いました。

保健師 河田 里奈

AMDA兵庫から保健師・調整員として派遣させていただいた。AMDAの医療保健活動が、被災された方の心身の健康を支え、自治体が持つ力を取り戻す手助けをしていると感じた。今後も支援を継続していきたい。

助産師 早瀬 麻子

鍼灸チーム調整員として活動させていただきました。自らも被災されながらも鍼灸チームで活動して下さっていた現地の方を通して、役割があることで前向きに頑張っておられる姿に頭が下がる思いでした。東日本の時に比べて鍼灸チームの初動がかなり早くなっているのも素晴らしいことだと感じました。

医療調整員 原田 弥生子

東日本大震災での活動以降、医療調整員の必要性を感じていましたので、この度は調整員としての参加を決めました。短い時間内での活動でしたが、何とか本部の方の指示を頂きながら業務を行うことが出来、改めて医療調整員の用途が色々あると思いました。

医療調整員 藤本 瑞穂

一度目はAMDA兵庫の支援物資運搬で総社入りした時、二度目は活動に参加できる日を事前に伝え、本部からの連絡を受けて参加した。調整員としての活動は始めてだったが、何か役に立つことがあればという思いで参加した。

「AMDA 兵庫とAMDA ネパール子ども病院の20年の歩みをまとめた

小説「極楽八景亡者戯」と記念誌「この笑顔に会いたくて」

「ネパールに子ども病院をつくりたい。」そんなネパールからの研修医の夢に最初にこたえたのが篠原明先生でした。そんな彼を襲ったのが悪性リンパ腫という病気。しかし、残り少ない命を全て病院建設に捧げ、1996年11月、彼はあの世に旅立ちました。その篠原先生を主人公にした小説を作るというプロジェクトができたのが2年前。



AMDAネパール子ども病院20周年記念事業として、ようやく小説が完成しました。小説の元となったのが、桂米朝師匠の十八番「地獄八景亡者戯」。心残りを残してあの世へと旅立った篠原明先生が、さばを食べて死んだ喜六や、フグの肝を食べて死んだ若旦那の御一行を引き連れてこの世に舞い戻り、奇兵隊というAMDAネパール子ども病院の応援団を作って、人集めや資金集めに奔走します。地獄をかき回した四人組も、東日本大震災や南海トラフの地震対応で大活躍。あの世はフィクション、この世はほぼノンフィクションの、奇想天外落語調の物語。それがこの「極楽八景亡者戯(ごくらくばっけいもうじやのたわむれ)」です。

また、ネパールの子どもの写真や病院の写真を多く掲載した記念誌「この笑顔に会いたくて」も小倉さん、早瀬さん、相羽さん、岩村さんの尽力で完成しました。今後、寄付の返礼品として活用する予定です。



AMDA 兵庫写真展継続中!

兵庫医療大学(ポートアイランド)の地域連携室でAMDA兵庫の活動を写真と共に紹介しています。地域連携室の開閉時間は、平日の9:30～16:00。どなたでもお越しいただけます。多数のご来場をお待ちしております。



「新たな10年に向けて“心機一転”」

AMDA 兵庫理事長 江口貴博

平素よりAMDA兵庫およびAMDAネパール子ども病院をご支援頂き有難うございます。皆様のご支援により、2018年2月にAMDA兵庫が、また同年11月にはAMDAネパール子ども病院が、無事に20周年を迎えることができました。その間病院では、病棟三棟と一棟の患者家族棟が完成し、約75万人を超える母子が病院を訪れ、計5万人を超える赤ちゃんが誕生、現在では地域に根ざした病院として機能しております。その20周年の記念事業として、11月3日記念シンポジウムを開催、それに合わせ記念誌「この笑顔に会いたくて」を作成、またAMDA兵庫の応援団「奇兵隊」の助力にて、故篠原明先生を主人公にした小説「極楽八景亡者戯」を発行いたしました。これも皆様のお力添えのお陰と大変感謝しております。

ただ近年、世界的な景気減速の煽りを受ける形で、ネパールをはじめとする新興国では幾分治安が不安定な状態となっております。その影響もあってか2019年1月17日にネパールで予定した20周年記念式典は、直前での中止となり、また今後しばらくは、派遣者の安全のため、日本からの派遣を見合わせる事となりました。

このようなネパール事情とは別に、AMDA兵庫内では、事務局や理事の高齢化や主要メンバーの県外移住など諸事情が重なり、組織運営が徐々に難しくなってきております。

こうした現状を踏まえ、来年度は新たな10年への充電期間とすることといたしました。じっくりと組織の改革を図っていく所存です。ただ、南海トラフ地震への対応など、今後に向けて取り組まなければならないプロジェクトもあり、組織の若返りを図りながら、AMDA神女クラブなどとの連携も模索して参ります。

これからも皆様のお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。

